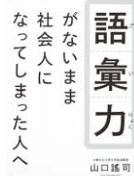


今月のイチオシ



コンビニ人間
村田 沙耶香(著)
文藝春秋

36歳未婚女性、大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目。日々食べるのはコンビニ食。ある日、婚活目的の新入り男性がやってきて…。現代の実存を軽やかに問う衝撃作。155回芥川賞受賞作。



語彙力
語彙力がないまま社会人になってしまった人へ

山口 諤司(著)
ワニブックス



日本の知恵ぐすりを暮らしに

瀬戸内和美(著)
東邦出版



日本の戦争解剖図鑑

拳骨 拓史(著)
エクスナレッジ



おやすみ、エレン魔法のぐつすり絵本

カール=ヨハン・エリーン(著)
飛鳥新社

公民館図書室利用時間

月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時

村公民館図書室の本を紹介します。
このほかにも、たくさん楽しい本が
皆さんを待っていますので、ぜひご利用
ください。



本とハッピー

はばたけ! 昭利村消防団

「消防団に入って」



第6分団長
市川 剛さん

私は消防団に入って16年になります。今年は何根沼田消防ポンプ操法競技大会(小型の部)の出場分団の分団長として出場し、優勝という貴重な経験をさせていただきました。選手や団員の方々には仕事や家庭がある中で練習に協力していただき大変ありがとうございます。

消防団は有事の際、仕事中でも夜中でも出勤しなければなりません。仕事場の皆さまや家庭に負担をかけることもあると思いますが、消防団活動にご理解いただければ嬉しく思います。入団して消防団活動や火事対応など大変な事はたくさんありますが、地元での様々な繋がりも増え良かったと思います。

来年からも団員として残るので消防団活動や仕事を両立できるように頑張っていこうと思います。

地域包括支援センターだより

実践! 介護予防 みんなで楽しくらくらく筋トレ体操!

今月は『貝野瀬いきいきサロン』を紹介します。

■場所: 貝野瀬農業構造改善センター

■日時: 毎週(水) 午後1:30~

☆ここが私たちの魅力☆

- 「基本に忠実」。筋トレ体操はしっかりと2回やって、健康体操も欠かさない。筋トレソングもみんなでゆったりと歌う。
- 男性も2人参加していて、大体15人くらい集まる。80歳以上の方が多数! きずなサポーターのみなさんは「体調にあわせてできることをやってほしい」「無理はしないで」「楽しくやれば良い」と、優しい思いで支えている。
- 体操後、おいしい手作りおやつを食べながら、おしゃべりする時間も大切にしている。

みんなの声

・役員が親切・元気の源・いつも楽しい・休まず頑張っている・体操が体にあっている・出かける場所があつて嬉しい・おやつがおいしいなど



「みんなに会うと元気になる!」と笑顔の皆さん

地域包括支援センターはサロンを応援しています!

ふるさと昭和 ～歴史を訪ねて～

第60回

久呂保村赤城
原野の開墾

昭和村ボランティアガイドの会
副会長 竹内 惣兵衛

国定教科書制が確立した年、^{すまわ}即ち、明治三十六年（一九〇三）久呂保村森下中宿の中島文十郎氏が御料地（現赤城開墾の一部）であった萱野の原野を借りて植林組合を設け、そこへ植林している。

その植林地内に防火線として開墾し、耕作を始めたのが赤城開墾の始まりであり、当時森下鎌沢の沢浦善三郎氏が今の板戸久保に桑園をつくり、森下から通って開墾したと伝えられている。

それから二年後の明治三十八年（一九〇五）には、ここへ小屋掛けで上がったのが住民のはじまりとなった。

また五、六年後には中宿の堤善造氏、上宿の真下甚之助氏、栃久保の角田多助氏と越後から入村した古沢作造氏、そして、同氏の兄弟で越後の佐々木政吉氏が登って開墾した。さらに二年後、つまり明治四十二年（一九〇九）伊藤博

文が暗殺され、アメリカが満州の中立案を提唱した年に栃久保から青木昌吉氏、南雲嘉市氏、森下から綿貫和七氏等が登っている。

その頃から村内外からの入植者が増えて、明治末期から大正初期にかけて、栃久保分三戸、森下分十戸、合計十三戸余で開拓部落を形成したのである。「久呂保農協史参照」



現板戸地区

ちなみに、糸之瀬村・赤城根村の生越では、明治二十年代以降土地の払い下げ請願を真剣に行っていた。しかし、払い下げは難しく、ならば官地を借りて木を育て利益を得る方法で、明治二十年三月糸井養林会社がつくられ、大河南他二百九十四町歩を借り受け植林し、貝野瀬や生越の原もすでに開墾されている。

「介護士とって」

私は渋川の施設で高齢者の生活を支える仕事をしています。その施設は旧北橋村にあって、そこで生活してきたたくさんの高齢の方が入居されています。

普段は食事・排泄・入浴を中心とした生活全般の手助けをさせていただいていますが、行事等の参加のお手伝いもしており、施設に来る地域の神輿、年に一回行う施設での祭では、古くから伝わる八木節を施設利用者の皆さんと共に楽しんだり等、その場所にある生活の重要性を感じています。

今は昭和村を離れて暮らしていますが、地元に戻った時の昭和村の広大な風景を感じたり、家族や友人に会うと、またここで暮らしたいなと思います。

将来は自分が育った昭和村で、介護の観点から地域貢献に努められるように、専門性や知識を深めていきたいと思っています。

◆◆◆◆◆
今回の登壇者は、木村 恭輔さん（23歳・大堀）です。

はっらっ
トーク



野田 翔尉さん
(22歳・中宿)

次回登壇者紹介

ぶっ飛んだことも言うけど、根は真面目でとってもいいヤツです。